

給食の歴史

お父さんや、お母さん、おじいちゃんおばあちゃんが食べた給食はどんなものだったのでしょうか？
給食も、時代とともに移り変わり、それぞれ目的や意味が違うことをご存知ですか？



レプリカ提供：公益財団法人静岡県学校給食会

- 献立**
- それぞれの献立を紹介します。どれも美味しそうですが、昭和26年だけ脱脂粉乳なのが特徴的です。
- ①コッペパン、マーガリン、鯨肉、味噌汁、せんきゃべつ
 - ②ソフトめん、ミートソース、バナナ、牛乳
 - ③ご飯、カレーシチュー、福神漬、ゆで卵、みかん、牛乳
 - ④食パン、ハンバーグ、野菜とコーンのソテー、フルーツポンチ
 - ⑤麦ごはん、麻婆豆腐(県内産豆腐)、駿河湾の桜えび入りシウマイ、もやしのナムル、りんご
 - ⑥青菜ごはん、おでん、大豆と小魚の揚げ煮、和風サラダ



6 現在の給食 とってもおいしそうですね！

学校給食の始まりは、明治22年山形県の小学校で家が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもを対象に昼食を無償で提供したものであるといわれています。

そして大正時代になると、東京の一部の小学校が栄養改善の目的で給食を出し始めます。すると、生徒達の身体がとて成長したことから、昭和の初期にかけて給食は全国に広まりました。

しかし、戦後の困難な食糧事情により、給食は中断され、子ども達の体格も低下してしまいました。

●学校給食の目標

適切な栄養の摂取による健康の保持増進を始め、他にも目標がいくつかあります。

①我が国や各地域の優れた伝統的な食生活についての理解を深めること

②食料の生産、流通及び消費について、正しく理解に導くこと

経済の発展とともに給食も豊かさを見せ、近年では(写真⑤・⑥)のように、県内の食材を使用するなど、栄養バランスだけではなく、地元を知るきっかけとなったりしています。

そして、前ページで紹介したような料理教室や、栄養教室なども行われ、子ども達にとっても体も豊かな給食が提供されています。

給食の未来

経済の発展とともに、日本の食生活は豊かになりました。しかし、その豊かさは、ある意味温かさを失ってしまっただけで、偏食やアレルギーの問題、そして簡単に調理されたものがコンビニなどで手に入り、料理方法も分からなくなる時代です。

学校給食は、小学生から中学生までの9年間、毎日出てくる児童・生徒にとって大切な昼食です。

学校給食は、栄養士だけではなく、先生、保護者の方々がみんなで考えなければなりません。

市では、年に3回、「給食審



給食審議会の様子(写真上下)

議会」を開催しています。各小中学校のPTAの皆さん、校長先生、教育委員会で構成され、学校給食のあり方について語り合う場を設けています。

調理過程の説明や、試食など、学校給食をより良いものにしていくため、活発な意見交換が行われます。

調理過程はスライドで説明され、食中毒予防のために各工程で温度チェックがなされていることなど、保護者、先生にとつて実情の分かる内容です。そして試食では、実際に味を確かめ、栄養バランスを確認します。

試食後の感想の中で、「お汁がとても美味しい。ちゃんとダシを取っているのです



ね。」という意見がありました。地元の鯉節を使用して美味しいお汁を提供していることがここで初めて分かります。

また、「家庭ではなかなか出ないものが出て、子ども達も味に慣れるので嬉しい。」「給食プレートが一体型で、左手を使わず前かがみで食べてしまう傾向があるので変更できないか。」「箸の持ち方など、給食はマナーも大事」など、様々な意見が出されます。

このように、学校給食はみんなの力を合わせて、児童・生徒に提供されています。

「給食は教育、食育」

地産地消で地元を知る、食事のマナー、栄養素の知識など、学校給食には沢山の教育的価値が詰まっています。

市では、給食センター建設に向けて本格的に進んでいます。1か所で調理することによるコスト削減も期待できますが、衛生管理の向上、器具の更新によってより美味しい給食の提供が可能です。

これからの、美味しく、安心して学校給食を提供していきます。

～下田市の給食について語っていただきました～



学校給食課 管理栄養士 片山 聖子

「栄養士さん、今日は全部食べられたよ」「苦手だったけど、頑張って食べたよ」給食の時間に教室を覗くと、元気な声で子どもたちが話かけてくれます。

食べることは、私たちの体を作る大切な役割があるのももちろんのこと、人と人とを



下田市PTA連絡協議会会長 館岡 孝弘

私が市P連の会長になって知った学校給食の現状はとてもしっかりとしたものでした。

例えば調理場の老朽化、衛生管理、様々なアレルギー対策等あげれば限りがありませんでした。

そんな中、行政の方々、栄養士さん、調理員の皆さんの

繋ぐコミュニケーションの場でもあります。

たとえ苦手の給食があったとしても、周りの友達の声掛けで克服ができた、魔法のような力が存在します。

家庭での食事の重要性はもちろんです、学校給食で得るものも多々あります。

ひとつの給食ができるまでに多くの人が関わり、みんな子ども達への思いを持って携わっています。

学校給食は、沢山の人の「優しい」の隠し味が入った、自然と笑顔が溢れる食事です。

仕事に対する努力と情熱を知り安心してお任せしています。

また給食は単なる昼食ではなく、食の教育も担っています。安全、栄養、食育の全てを支えて頂き感謝の念に耐えません。

我々市P連も給食審議会、試食会等行って学校給食に対する理解を深めるとともに、当たり前ですが各家庭で箸の持ち方から食べ物の有り難さを教えなければなりません。

行政、学校、地域、家庭が一体となって学校給食を支えて行きたいと強く思います。